

資料

群馬県内におけるカミツキガメの目撃・捕獲状況について

坂庭浩之¹・田中義朗²・姉崎智子³・黒川奈都子⁴

¹群馬県環境森林部自然環境課：群馬県前橋市大手町1-1-1 (sakaniwa-hi@pref.gunma.jp)

²群馬県食肉衛生検査所食肉検査第一グループ：群馬県佐波郡玉村町樋越305-7 (tanaka-yoshiro@pref.gunma.jp)

³群馬県立自然史博物館：群馬県富岡市上黒岩1674-1 (anezaki@gmnh.pref.gunma.jp)

⁴群馬県健康福祉部食品安全会議事務局食品監視課：群馬県前橋市大手町1-1-1 (kurokawa-natsuko@pref.gunma.jp)

要旨：特定外来生物であるカミツキガメは、国内（千葉県印旛沼）での定着繁殖が確認されており、全国的にカミツキガメの捕獲情報がある。このことから、群馬県内におけるカミツキガメの目撃及び捕獲情報を整理したところ、一部の地域でその生息動向を注視すべき捕獲情報があることが確認された。

キーワード：カミツキガメ, *Chelydra serpentina*, 群馬県

Current status of Snapping turtle (*Chelydra serpentina*) in Gunma Prefecture (2007)

SAKANIWA Hiroyuki¹, TANAKA Yoshirou², ANEZAKI Tomoko³ and KUROKAWA Natsuko⁴

¹ Natural Environmental Division, Department of Forestry and Environmental Affairs, Gunma Prefecture Government: 1-1-1 Ohtemachi, Maebashi City, Gunma Prefecture

² Gunma Prefecture Office of Meat Inspection: 305-7 Higoshi, Tamamura Town, Sawa Gun, Gunma Prefecture

³ Gunma Museum of Natural History: 1674-1 Kamikuroiwa, Tomioka City, Gunma Prefecture

⁴ Food Supervision Division, Department of Health and Welfare, Gunma Prefecture Government: 1-1-1 Ohtemachi, Maebashi City, Gunma Prefecture

Key Words: Snapping turtle, *Chelydra serpentina*, Gunma Prefecture

はじめに

カミツキガメ *Chelydra serpentina* はカナダ南部からアメリカ合衆国東部、中央アメリカ、南アメリカ北部に4亜種(4亜種、ホクベイカミツキガメ *C. s. serpentina*, フロリダカミツキガメ *C. s. osceola*, チュウベイカミツキガメ *C. s. rosignoni*, ナンベイカミツキガメ *C. s. acutirostris*)が棲息している(千葉県外来亀対策検討委員会, 2006)。日本へは1960年代以降に幼体がペットとして大量に輸入され(日本生態学会編, 2002), 1匹300円程度で販売され飼育する人が激増したといわれている。1990年代から野生放逐した個体が目撃されるようになり、各地で定着している可能性が高く、すでに千葉県で定着が確認されている(千葉県外来亀対策検

討委員会, 2006)。そのため、2005年6月に施行された「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」(以下「外来生物法」と記す)では第1次指定されている。生態系や人の生命若しくは身体又は農林水産業に係る被害が懸念されている。

カミツキガメは池、沼や川などに住み、浅い泥底の水草の茂っているような場所を好み、汽水域でも生活できる。生活史のほとんどを水中で生活し、陸にあがることは少ない。食性は昆虫、ミミズ、貝類、甲殻類、魚、両生類、爬虫類、水鳥、水草などあらゆるものを食べ、成熟個体のメスは10~80個の卵を散乱するとされていることから、生態系への影響や農水産業に係る被害が懸念されている(環境省, 2005)。また、動きのある物に対して機敏に反応し、俊

敏な動きによって獲物を捕らえられる大きな口を有しており、人の生命若しくは身体への危険性も示唆されている。

群馬県内においては、平成13年5月に太田市成塚町内にある水路付近の路上で1頭の捕獲が確認されたが、逸走したペットとして処理されており詳細は不明である。外来生物法の施行から約2年半が経過したことから、群馬県内におけるカミツキガメの目撃・捕獲状況をまとめたので報告する。なお、データ収集のための解剖作業は、2007年度子どもミュージアムスクール・ほ乳類骨学実習コース生、岡野 督・塩野ゆり子・斎藤 寛・松井理香子・田島祐美・湯澤太路が中心となって実施した。

捕獲状況

平成13年度から平成19年12月現在まで群馬県内では8頭のカミツキガメが捕獲されている(表1)。その捕獲位置は、高崎市2頭、渋川市3頭、伊勢崎市、太田市、甘楽町がそれぞれ1頭であった(図1)。いずれの捕獲も偶発的に発見し捕獲されたもので、通行人や釣り人による捕獲などである。

8頭のうち高崎市、伊勢崎市、太田市、甘楽町での捕獲状況は、他の捕獲位置との距離も離れており、捕獲時の状況も様々であることから相互の関連性はないと考えられる。しかしながら渋川市半田で捕獲された2頭については捕獲位置が隣接しており、また渋川市北橘町真壁の個体の捕獲位置とも比較的距離が近いことから相互の関連性を疑わせる状況であった。

捕獲された時期をみると、5月に3頭、6月から8月が各1頭、9月が2頭であり、カメが活発に活動する時期と一致する。また、カメが道路上で発見される場合、雨天後の発見例が多いと考えられることから、捕獲と降水量との関係について調べたところNo.1, 2, 3, 8のカミツキガメが捕獲された日は、降雨のある天候(気象庁統計情報)であった。No.6のカミツキガメが捕獲された前日は33mmの降雨であった。またNo.7のカミツキガメが捕獲された2~3日前は一時間あたりの降水量が20mmを超え日降水量60mm程度の強い降雨のあった日であった(表3)。



図1 カミツキガメの捕獲位置

表1 カミツキガメの捕獲状況

番号	年 月 日	発見場所	発見状況	捕獲時の天候	自然史博標本(仮)番号
1	2001 5.23	太田市成塚町	通行人が道路上で発見。消防署に届ける。	前日:霧, 雨 当日:雨	—
2	2005 7.25	渋川市半田	通行人が道路上で発見。警察署に届ける。	前日:晴, 曇 当日:雨, 曇	—
3	2006 6.16	高崎市乗附町	野鳥観察中に足元で発見。警察署に届ける。	前日:霧, 雨 当日:雨, 曇	VR06-8
4	2006 9.22	高崎市大沢町	通行人が道路上で発見。警察署に届ける。	前日:曇, 晴 当日:曇	VR06-9
5	2007 5.3	甘楽町白倉	釣り人が吊り上げる。警察署に届ける。	前日:晴, 雨 当日:晴, 曇	VR07-1
6	2007 5.26	渋川市半田	河川内で発見し捕獲。警察署に届ける。	前日:雨 当日:晴	VR07-6
7	2007 8.1	伊勢崎市波志江町	通行人が路上で発見。警察署に届ける。	前日:霧, 晴 当日:晴	VR07-5
8	2007 9.2	渋川市北橘町	釣り人が吊り上げる。警察署に届ける。	前日:雨, 霧 当日:曇, 雨	VR07-3

目撃情報

群馬県自然環境課に寄せられた情報としては、平成17年度から平成19年12月現在までに2件の目撃情報がある(表2)。いずれの情報もカミツキガメであることが疑われる情報であるものの、カミツキガメに特定できるものではない。

No.1個体の目撃情報については、目撃地点から上流及び下流域を約1kmにわたり群馬県職員、高崎市職員など10名により、河川の刈り払い等を行いながら捜索したが発見に至らなかった。

また、朝日新聞(聞蔵IIビジュアル(1985~2006))、上毛新聞(上毛新聞記事データCD-ROM(1990~2006))、読売新聞(ヨミダス文書館(1986~2006))、毎日新聞(毎日Newsパック(1987~2006))の電子化されたデータベースにより県内のカミツキガメに関する情報を調べたところ、目撃情

報は得られなかったが、平成15年6月10日、沼田市栄町路上において飼育個体の逸走によるカミツキガメの発見・捕獲情報が1件確認された。

カミツキガメの運動能力

カミツキガメなどの水棲カメは一般的に陸上移動が苦手と考えられているが(図2)、実際の個体(VR07-6)において、その歩様の観察と歩行速度の計測を実施した。その結果、段差のないカーペット敷床面において1分あたり約7mで移動することが確認された。これは継続的に長距離を移動する速度ではなく、人が近くにいる時など、カミツキガメにとって危険な状況下で、身を隠すまでの短距離の移動速度と考えるのが適当である。

歩様については、移動する際には四肢を甲羅より大きく突っ張り臀部をやや高く構えた姿勢を保ちながら、甲羅を

表2 カミツキガメの目撃情報

年	月日	発見場所	発見状況	ソース
2003	6.1	沼田市栄町	飼育個体の逸走	上毛新聞(2003.6.12)
2006	7月	高崎市寺尾町	川の中に大きなカメを発見	自然環境課
2006	10.14	高崎市浜川町	川の中に大きなカメを発見	自然環境課

表3 カミツキガメ捕獲日前の降水量(mm)

	年	月日	前々日	前日	捕獲日	観測点	捕獲位置
1	2001	5.23	0	1	34	伊勢崎	太田市成塚町
2	2005	7.25	0	0	9	前橋	渋川市半田
3	2006	6.16	0	19	50	上里見	高崎市乗附町
4	2006	9.22	0	0	0	上里見	高崎市大沢町
5	2007	5.3	2	0	0	藤岡	甘楽町白倉
6	2007	5.26	0	33	0	前橋	渋川市半田
7	2007	8.1	61	0	0	伊勢崎	伊勢崎市波志江町
8	2007	9.2	2	1.5	0.5	前橋	渋川市北橋町

観測点は捕獲位置に最も近い位置を表記

気象庁気象統計情報 (<http://www.jma.go.jp/jma/menu/report.html>) 最終更新2008.1.8



図2 カミツキガメ (VR07-6)



図3 カミツキガメの歩行の様子(VR07-6 背後よりの撮影)

数センチ拳上して大きなストライドで歩行する様子が観察された(図3)。

また、四肢の先端に発達した爪を使い、壁面が網状のプラスチック製野菜かごなどからの脱出には、その爪を掛け、自重を支持しながら立ち上がることが観察された。野生下においては、これらの運動能力を生かして、その拡散を有利に進めている可能性がある。

解剖所見

表1中No. 5 (VR07-1)及びNo. 8 (VR07-3)の2個体について剖検より次の所見を得た。解剖したいずれの個体もメスであり、成熟した卵を多数認めた。繁殖適期にオスと交尾することで、群馬県内での繁殖する可能性が示唆された。

No. 5 (VR07-1)

解剖日：2006. 8. 18

安楽死方法：-30℃による冷凍処分。

頭尾長：(自然長)68.5cm, 体重 8200g

甲羅長：(曲長)33.5cm, (直長)27.5cm, 甲羅幅(曲長)39.5cm, (直長)25.5cm

栄養状態：良好, 四肢付け根部分に多量の脂肪組織を認める
胃内容：アメリカザリガニの外殻部を多数認める。

卵巣子宮状態：直径20mm長前後の球形の卵76個, 未発達
の卵を多数認める。

寄生虫等：内部, 外部寄生虫とも認めず。

推定年齢：12歳以上

No. 8 (VR07-3)

解剖日：2006. 9. 17

安楽死方法：心臓部へのケタミン投与

頭尾長：(自然長)43.0cm, 体重 3400g

甲羅長：(曲長)23.5cm, (直長)23.0cm, 甲羅幅(曲長)27.0cm, (直長)21.0cm

栄養状態：良好, 四肢付け根部分に多量の脂肪組織を認める
胃内容：捕獲後数日の無給餌状態であったことから, 内容物なし。

卵巣子宮状態：直径12から17mmの球形の卵39個, 未発達
の卵を多数認める。

寄生虫等：内部, 外部寄生虫とも認めず。

推定年齢：不詳

考 察

現時点において、群馬県内でカミツキガメが繁殖している事実は未確認である。しかし、解剖個体の卵巣・子宮の状態や、カメ自体の寿命の長さや運動能力の高さなどの定着繁殖につながる要因が複数確認された。また、胃内容の分析からは、県内でも広く繁殖しているアメリカザリガニが確認されており、餌場の環境も定着繁殖に十分な条件が揃っていると考えられる。

カミツキガメの定着繁殖については千葉県印旛沼を中心に調査が進められており(県外来亀対策委員会, 2006)、捕獲情報は全国で認められる(日本生態学会編, 2002)。特に外来生物法の施行以降の捕獲情報は、複数の新聞記事データベースからも多くの事例が確認された。

現在までに群馬県内で発見・捕獲された個体は、いずれも偶発的に確認されたものであるが、群馬県内の棲息状況を把握するためには、より積極的な調査への取り組みが求められる。中でも、渋川市半田周辺では連続してカミツキガメが捕獲されていることから、特に優先度が高い地域と考えられる。

一方で、高崎市寺尾町の様に目撃情報に基づいた河川の刈り払い捜索を実施しても発見できないなどの状況を考えると、その調査は容易ではなく、環境省が千葉県印旛沼で進めているモデル事業などの成果を踏まえて対策を検討する必要がある。カミツキガメやアライグマをはじめとする特定外来生物の県内における棲息域の拡大は今後も続くと考えられることから、関係者機関の協力の下で効果的で効率的な対策が求められる。

謝 辞

本データの作成に携わって下さった関係者の方々に深く感謝申し上げます。

引用文献

- 朝日新聞記事データベース：聞蔵II ビジュアル(1985～2006)
環境省(2005)：特定外来生物へのマイクロチップ埋込み技術マニュアル. 159pp.
気象庁気象統計情報(<http://www.jma.go.jp/jma/menu/report.html>) 最終更新2008. 1. 8
上毛新聞記事データCD-ROM(1990～2006)
外来亀対策検討委員会(2006)：平成16・17年度外来種対策事業カミツキガメ生息調査報告書. 外来亀対策委員会. 76pp.
日本生態学会編(2002)：外来生物ハンドブック. 地人書館, 東京, 390pp.
読売新聞記事データベース：ヨミダス文書館(1986～2006)
毎日新聞記事データベース：毎日Newsパック(1987～2006)